

滋賀県における低炭素社会づくりの推進・地球温暖化対策に関する取組についてのアンケート結果

調査時期：平成23年9月

対象者：県政モニター352人

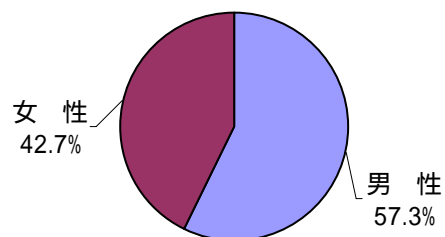
回答数：279人（回収率79.3%）

担当課：琵琶湖環境部温暖化対策課

調査目的：県では、2030年における温室効果ガス排出量が1990年比で50%削減され、かつ経済・生活が持続的に発展する豊かな低炭素社会を実現するため、平成23年3月に「滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例」を制定するなど、低炭素社会づくり・地球温暖化対策の取組を進めています。今後、この取組を進めていく上での参考とするため、この調査を実施しました。

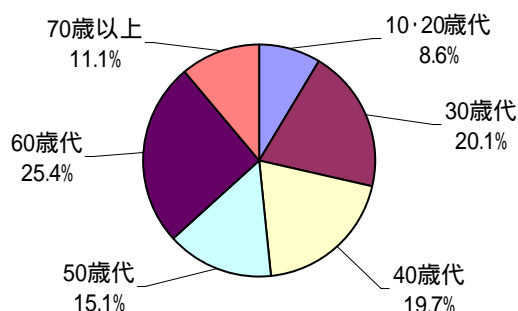
【回答者の性別】

項目	人数(人)	割合(%)
男性	160	57.3
女性	119	42.7
合計	279	100.0



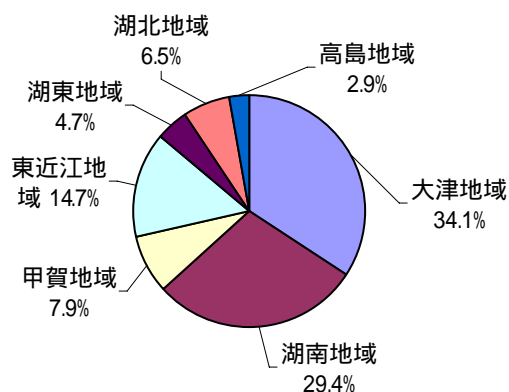
【回答者の年代】

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	24	8.6
30歳代	56	20.1
40歳代	55	19.7
50歳代	42	15.1
60歳代	71	25.4
70歳以上	31	11.1
合計	279	100.0



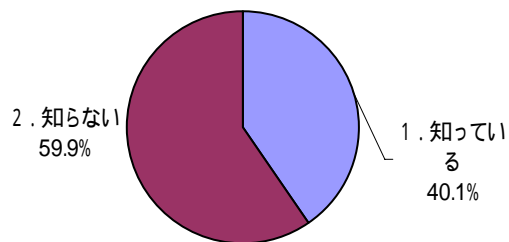
【回答者の居住地】

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	95	34.1
湖南地域	82	29.4
甲賀地域	22	7.9
東近江地域	41	14.7
湖東地域	13	4.7
湖北地域	18	6.5
高島地域	8	2.9
合計	279	100.0



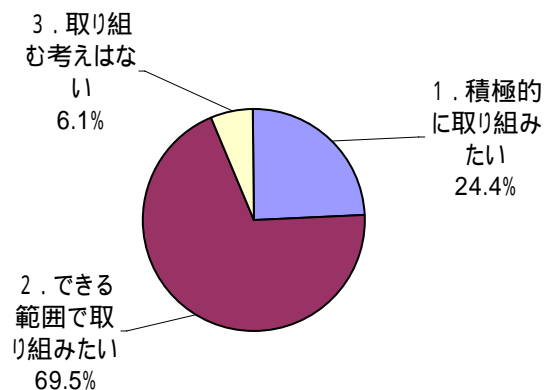
問1 滋賀県が2030年に温室効果ガスを1990年比で50%削減する目標を掲げていることを知っていますか。(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1.知っている	112	40.1
2.知らない	167	59.9
合計	279	100.0



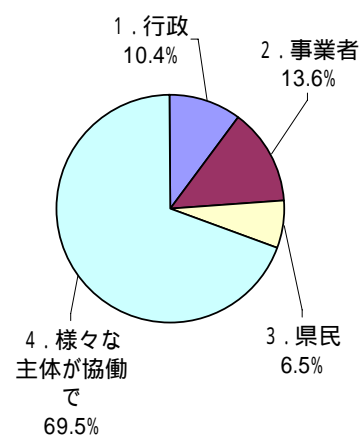
問2 この目標に向けて取り組むことについて、どのようにお考えですか。(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1.目標達成に向けて積極的に取り組みたい	68	24.4
2.目標達成に向けてできる範囲で取り組みたい	194	69.5
3.目標達成に向けて取り組む考えはない	17	6.1
合計	279	100.0



問3 低炭素社会づくりや地域温暖化対策に取り組むべきであるのは、主にどの主体だとお考えですか。(回答チェックは1つだけ)

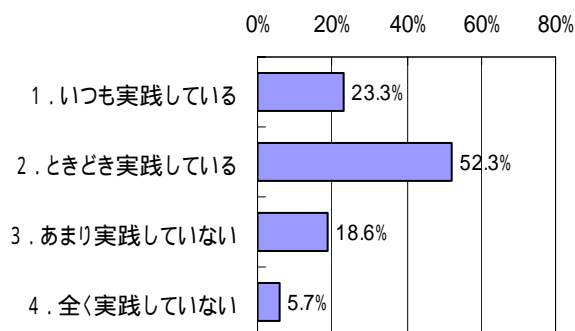
項目	人数(人)	割合(%)
1. 行政が主に取り組むべき	29	10.4
2. 事業者が主に取り組むべき	38	13.6
3. 県民が主に取り組むべき	18	6.5
4. 行政、事業者、県民など、様々な主体が協働で取り組むべき	194	69.5
合計	279	100.0



問4 次の(1)~(8)に掲げる地球温暖化対策の行動を実践していますか。(それぞれの項目について回答チェックは1つだけ)

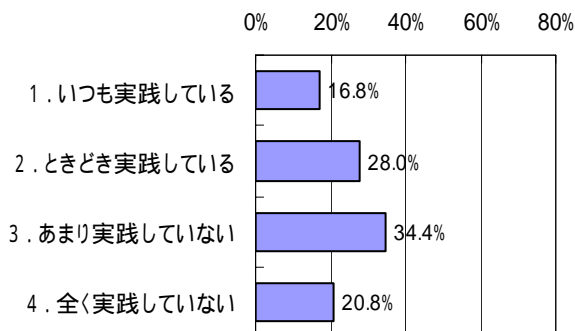
(1) 省エネルギー・省資源について家族と話をすることがある

項目	人数(人)	割合(%)
1. いつも実践している	65	23.3
2. ときどき実践している	146	52.3
3. あまり実践していない	52	18.6
4. 全く実践していない	16	5.7
合計	279	100.0



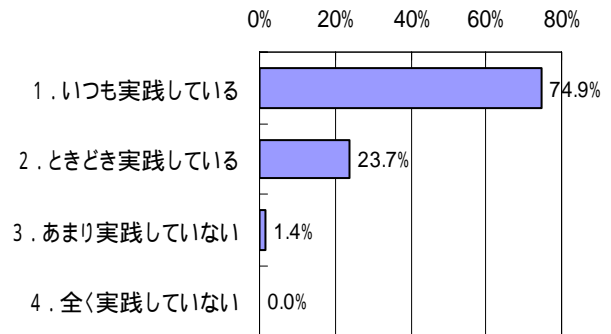
(2) 環境家計簿や省エネナビなどで家庭のエネルギーの使用量を把握している

項目	人数(人)	割合(%)
1. いつも実践している	47	16.8
2. ときどき実践している	78	28.0
3. あまり実践していない	96	34.4
4. 全く実践していない	58	20.8
合計	279	100.0



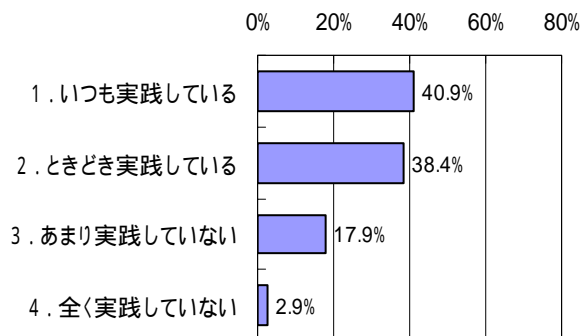
(3) 不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないよう調節している

項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	209	74.9
2.ときどき実践している	66	23.7
3.あまり実践していない	4	1.4
4.全く実践していない	0	0.0
合計	279	100.0



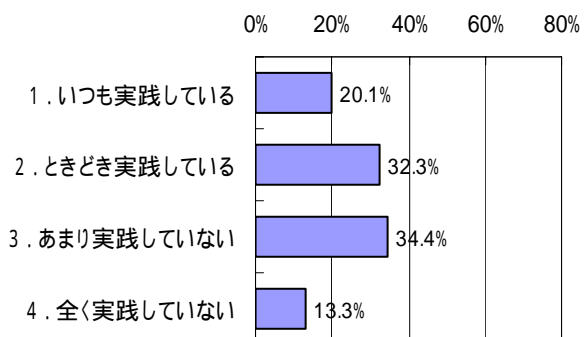
(4) 短距離の移動は、自動車を使わず、徒歩や自転車を利用している

項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	114	40.9
2.ときどき実践している	107	38.4
3.あまり実践していない	50	17.9
4.全く実践していない	8	2.9
合計	279	100.0



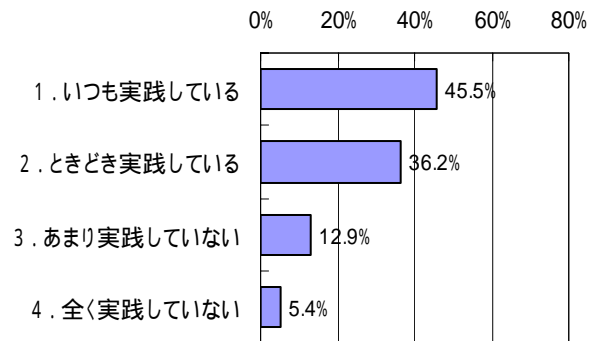
(5) 自動車よりも、電車やバスなどの公共交通機関を利用している

項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	56	20.1
2.ときどき実践している	90	32.3
3.あまり実践していない	96	34.4
4.全く実践していない	37	13.3
合計	279	100.0



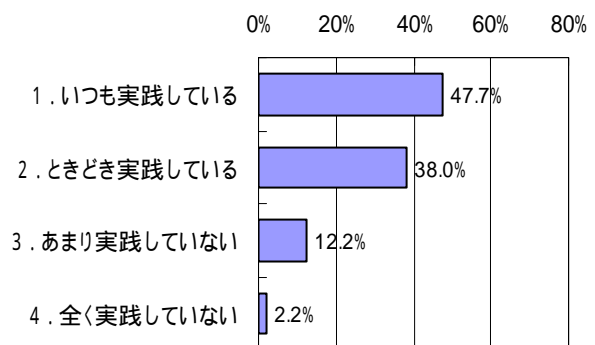
(6) 自動車を利用する際は、アイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを
実践している

項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	127	45.5
2.ときどき実践している	101	36.2
3.あまり実践していない	36	12.9
4.全く実践していない	15	5.4
合計	279	100.0



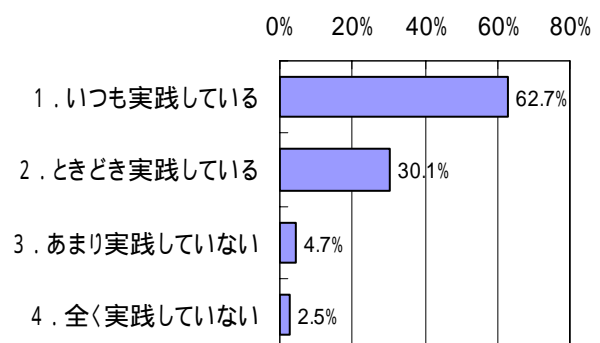
(7) ごみの量を減らすよう工夫している

項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	133	47.7
2.ときどき実践している	106	38.0
3.あまり実践していない	34	12.2
4.全く実践していない	6	2.2
合計	279	100.0



(8) 買い物袋を持参している

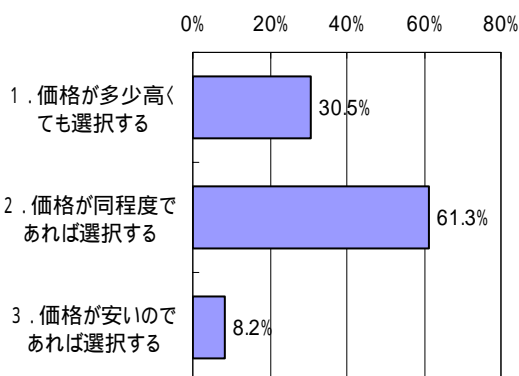
項目	人数 (人)	割合 (%)
1.いつも実践している	175	62.7
2.ときどき実践している	84	30.1
3.あまり実践していない	13	4.7
4.全く実践していない	7	2.5
合計	279	100.0



問5 買い物等をするとき、どのような場合に次の(1)～(4)に掲げる製品等を選択しますか。(それぞれの項目について回答チェックは1つだけ)

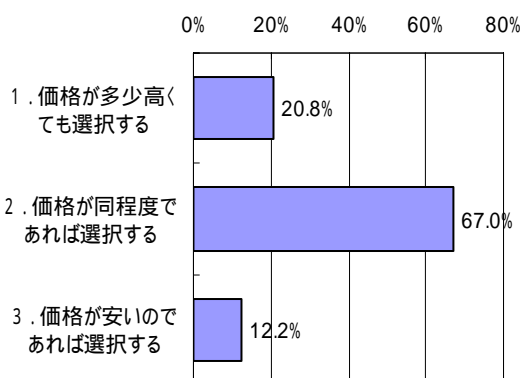
(1) 省エネ性能の高い家電製品(LED照明、エアコン、冷蔵庫、テレビなど)

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が多少高くても選択する	85	30.5
2. 環境負荷の高い類似製品と、 価格が同程度であれば選択する(補 助制度等により自己負担額が同 額となる場合を含む)	171	61.3
3. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が安いのであれば選択する	23	8.2
合計	279	100.0



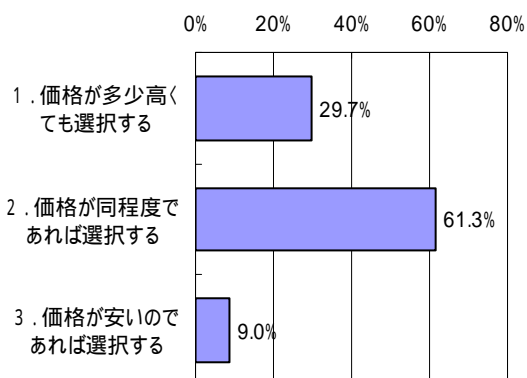
(2) 低燃費車やハイブリッド車、電気自動車などのエコカー

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が多少高くても選択する	58	20.8
2. 環境負荷の高い類似製品と、 価格が同程度であれば選択する(補 助制度等により自己負担額が同 額となる場合を含む)	187	67.0
3. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が安いのであれば選択する	34	12.2
合計	279	100.0



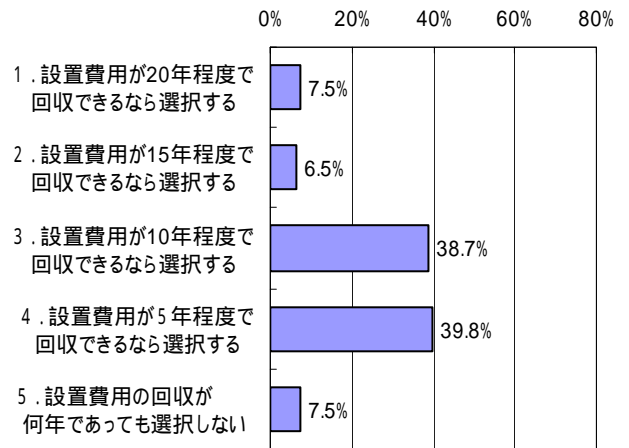
(3) 断熱性能の高い省エネ住宅

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が多少高くても選択する	83	29.7
2. 環境負荷の高い類似製品と、 価格が同程度であれば選択する(補 助制度等により自己負担額が同 額となる場合を含む)	171	61.3
3. 環境負荷の高い類似製品より、 価格が安いのであれば選択する	25	9.0
合計	279	100.0



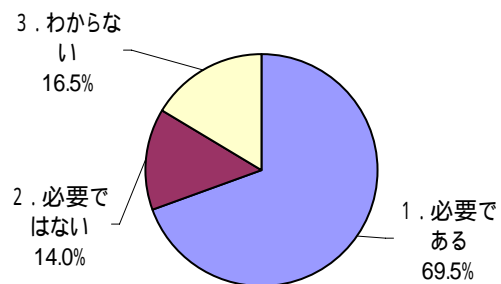
(4) 自然エネルギーを活用する太陽光発電、太陽熱温水器など

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 電気代やガス代が節約されることにより、設置費用が20年程度で回収できるなら選択する	21	7.5
2. 電気代やガス代が節約されることにより、設置費用が15年程度で回収できるなら選択する	18	6.5
3. 電気代やガス代が節約されることにより、設置費用が10年程度で回収できるなら選択する	108	38.7
4. 電気代やガス代が節約されることにより、設置費用が5年程度で回収できるなら選択する	111	39.8
5. 設置費用の回収が何年であっても、選択しない	21	7.5
合計	279	100.0



問6 低炭素社会を実現するため、また地球温暖化対策を実効性のあるものにするためには、各々の自主的な努力に加えて、規制等により取組を強化する必要があるとお考えですか。(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 必要である	194	69.5
2. 必要ではない	39	14.0
3. わからない	46	16.5
合計	279	100.0



問7 その他、低炭素社会づくりや地球温暖化対策に関してご意見がありましたらお聞かせください。(主なものを抜粋)

- ・CO₂が増え温室効果ガスが増える事により、地球の温暖化が進んだときの私たちにどれだけ影響があるか本当の所を知りたいと思います。温暖化阻止というより、化石燃料の使用削減を目指した方が納得感があります。
- ・具体的にもっと詳しく説明して頂きたい。低炭素社会や温暖化対策の言葉では理解でき

- ない子どもにもわかるように、これがこうなるとどうなるとか詳しく説明が必要である。
- ・滋賀県が独自の目標を掲げていることは知らなかった。周知して積極的に取り組むべきだ。でも補助金等なにかメリットがないと腰が重いのも事実だ。
 - ・一般の県民や一般家庭で、どのようにしたら温暖化対策になるのか、分かっているようで、もう一つ分かりにくい。温室効果ガス半減への工程表が、6分野190項目の具体策として発表されたとききます。それから、どうなりましたのでしょうか。東北大震災が、まだこれから復旧、復興しなければと言ってる際に、関西で奈良県、和歌山県に台風の大災害が発生。これも皆、地球温暖化が影響していると聞きます。今夏、一般家庭で、出来ますこと、省エネ電力削減に取り組みました。少しずつでもやっていきます。是非、一般の県民や一般家庭で出来ます対策をPR、広報活動をお願いします。
 - ・こういった環境に対する取り組みも県政モニターになって、意識的に県政の動きを見ようとしても、わからないことが多い。本当に十分発信しているといえるのか、効果的に発信しているといえるのか、検討してほしい。社会の「個別化」が極端に進んだ中で、地域の協働を進めるための課題も多い（個々人の社会に対する無関心など）ことは百も承知しているが、東日本大震災をきっかけに環境や生活の環境負荷に対する関心が高まっている今こそ、千載一遇の好機ではないか。市町村との連携や自治会組織の活用などによって、県政の方針などについて十分に周知徹底を図ってほしい。
 - ・地球温暖化するような生活習慣が身につけてしまっているのが、機会があるたびに、低炭素社会についての学習、宣伝を繰り返し行うことが大切だと思います。
 - ・新エネルギーの研究や助成金等を頑張してほしい。消費量を軽減させる行為を自然にできるように心がけたい。
 - ・低炭素社会づくりや地球温暖化対策は、滋賀だけでなく今後の社会において自然の流れだと思います。先の方針に関連による節電対策に見られるように、行政や産業が主導して具体的に実践していけば環境負荷の少ない社会が実現できると思います。政治・行政が地球環境にやさしく、また生活や企業活動に多大なストレスをかけないような仕組みづくりが大事だと思います。そのためには施策や助成を、自然エネルギー等に関連した分野に投資をしたり援助する必要があるのではないかと感じます。滋賀県は琵琶湖を抱えたシンボリックな環境県というイメージをより強化して、対外的にもブランド戦略として発信できると思います。まずは、県内住民のコンセンサスと県内企業との歩調を合わせて、産官学一体となった協働ができれば、より良い未来を築けるのではないかと感じています。
 - ・自然エネルギーを利用したくても現在のように設置費用が高く、回収に20年から25年もかかるようでは考えものでためらっています。化石燃料を使うことで温暖化が心配であれば、そこをなんとか考えていただいて、たやすく設置できるような政策は出来ないのでしょうか。価額操作が出来なければ長期に低利で貸付ける方策も無理でしょうか。生活保護費を3兆円も予算化しなければならぬ社会の現状では、自然エネルギー

の活用を太鼓たたいいはやしても急速な伸びは無理なように思います。大英断をお願いしたいと思う今日この頃です。

- ・地球温暖化対策の住民の取り組み促進には行政の支援（エコポイント、助成金制度など）が有効。規制措置が効果あるかわからないが、出来るだけ自主的な努力が望ましい。
- ・一つは行政のリーダーシップをあまり感じない。次に企業としての具体的な取り組みがあると思うので、もっと社会にアピールして企業間で競争できるような仕組みを考えてはどうか？そして、家庭にあっては節電などを通していろんな情報が広まっているので光熱費削減のためにも実施している家庭が増えているのではないかと思います。低炭素社会が当たり前の生活になっていくことが目標だし思うのでいろんな方面から実践していくことが大切だと思います。
- ・実現のためは、個人の努力だけでなく事業所等に一定の規制をかけて取り組んでいかなければと思う。個人として又家庭ではどのようにしていけばいいのか具体的なものを示して、行政がリーダーシップを発揮すればよいと思う。
- ・一人ひとりの意識は大切だが、個人でできることは知れているので、工場・店舗など大きいところでも努力してほしい。たとえば、24時間営業のコンビニ・スーパーなんて必要かな？と思います。
- ・通勤・通学への自家用車使用制限（ナンバーの下一桁と合致する車は駐車を禁止する、市街地中心への自家用車乗り入れ禁止などの施策を通じて）によって、郊外居住から市街地居住へのながれを行政が主導するべきです。人口減少高齢化時代は市街地復帰・活性化が進むべき道で、環境にも優しくなります。
- ・滋賀県は公共の交通機関が充実していないので車に頼ざるを得ない。もっと路線や頻度を緻密にして地球や老人に優しい県作りに取り込むべきだ。
- ・「自動車よりも、電車やバスなどの公共交通機関を利用している」という項目ですが、滋賀県では公共の交通機関の整備がとても遅れているように思います。大津市の湖西在住ですが、バスを利用しようにも運行回数があまりにも少ない。最終運行時間もとても早いため、利用したくてもできません。滋賀県は車がないと何処にも行けないとは、よく耳にする話です。
- ・自治体主催の催しについては、原則として公共交通機関を用いて参加することを参加者に求める、あるいは、送迎バスの手配をするなどの形で、行政が積極的に低炭素化を推進していることを県民に見せるようにしていただきたい。
- ・地球温暖化対策は、一人ひとりの日々の心がけが大切だと思います。
- ・このたびの震災により、火力発電が必要となりました。このように突発的な天災もあり、温室効果ガスの削減目標の到達は困難かもしれませんが、それに向かって努力する必要があると思います。